

応援小旗



駅伝をはじめ種々の競技、対校戦で学员・学生にとどまらず親しみのあるCマークの手振り旗。これは父母連絡会事務局が何か新入生に贈るものが欲しいと生協に相談して1992年に初めて作ったものである。この小旗はそれから4年間、入学記念品として贈られたが、これが応援の場面で使われ、テレビ放送で初めて映し出されたのも、その年11月に大阪で行われた全日本大学女子駅伝の時、アンカーを迎える長居陸上競技場のスタンドの中だったという。

そんな応援小旗、実は歴史は意外に古い。上の写真は大学昇格の年、1920年秋の運動会の一コマである。学生は手に手に応援小旗を持ち、その小旗を配っているらしい少女たちもいる。これは市内のおもな商店から3学部へ寄贈された応援旗で、委員連がそれぞれの学部の応援を頼みながら手あたり次第に渡したという記録が残っている。

また、東都大学野球リーグ発足の頃、31年にも作られた。野球応援をきっかけに予科生を中心とした大応援団が結成され、「学生らしい中央スピリット」を表す応援をしようと考えてデザインした三角の小旗である。若人の意気と熱を表す草色の地に、潔白を示す白で「CHUO」と染め抜き、暖かい団結を表す橙色で細く縁取りしたもので、三越に発注して製作、学内で販売した。